

自然保育推進事業 活動報告書

1 団体名

学校法人ころころ学園どんぐり幼稚園 広島県神石郡神石高原町階見 501

2 30年度の活動概要

(1) 環境構成に関すること

園庭のイチョウの木

開園当初、初代園長が植えた園庭のイチョウの木が四季折々の顔を見せてくれています。成長段階で伐ることによって枝が広がり、ツリーハウスになるようにしています。はしごをかけて木の上にかだを組み、滑り棒やロープからおりてくる子どもたち。危険の無いよう年二回の奉仕作業の時に保護者の皆様と一緒に点検、補修して傷んでいる箇所を取り換えたり防腐剤やペンキをぬり、環境を整えています。

秋には銀杏が大量になって落ちるため、毎朝その都度拾い集めてむいで乾かしています。銀杏の実には臭いもきつく、汁にかぶれるのでこどもたちも気をつけて拾っています。



砂場

いちょうの木

裏山のそり滑り場

雪がふったときにそり滑りができるよう、裏の斜面を秋のうちに草刈り、きりかぶが無い点検をして環境を整えておくようにしています。

ソリ滑り場も以前の奉仕作業時に保護者の方と斜面になるように土を運び整えた場所で、秋にはイノシシが出て掘り返したりするのも埋めたりして整備しています。

(2) 特に印象的だった遊びの事例に関すること

○栗拾い・やきいも・焚き火（11月）

お寺の栗がたくさん落ちてきて、栗拾いを体験しました。栗のイガに気をつけながら足で上手に踏んで栗を取り出す子どももいました。

春に植えたさつまいもを収穫しました。大きなおいもや、ちっちゃなおいもを掘っては満面の笑みで写真をとりました。

おいものくきの部分をみんなで皮をむき、先生に料理してもらっておいしくいただきました。「お芋の茎って食べれるんだね、お母さんに言おう。」と言っていました。

園庭で焚き火をして、おいもや銀杏を焼いてみんなでいただきました。

焚き木は秋の探検で裏山に行った時に落ちている枝をそれぞれに拾い集めて持ち帰り、乾かしておいたものを使います。大きな火をみんなで取り囲み、歌を歌ったりしながらいもを濡らした新聞で包み、さらにアルミホイルで包んで焼き芋の準備をします。

こうすることでホクホクの焼き芋ができます。

焼きあがると小さいお友達から順番にいただきます。

「おいしい！もう一つ食べてもいい？」

と、次々におかわりして食べました。

今年も銀杏が大豊作で、道の駅 182 ステーションに出荷しました。



いもほり



栗



出荷した銀杏

○雪遊び (1月・2月)

園庭や裏山のそり滑り場に、たくさん雪が積もって子どもたちは大喜びで雪滑りをしたり、雪だるまやかまくらを作り、雪の中で遊びました。

ソリを持って順番に並んで滑ります。コツをつかんで自由に向きを変えられるようになる子もいて、お友達同士で教えあう場面も見られました。

慣れて来たら急な斜面のほうに挑戦し、身のこなし方も上手になりました。

小さいお友達は平らな場所でソリに乗せてもらい、大きい子に引っ張ってもらいました。

雪の冷たさもなんのその、汗をかきながら思いっきり遊びました。



雪遊び



もちつき



とんど

(3) 所感・課題

自然体験をしていく中で、山に上る大変さ等を感じ、自然物に触れることで、日常生活にも工夫が生まれ、遊びの幅も広がったように感じました。

子どもたちの思考力、問題解決の力をつけていけるように、子どもたちの興味や関心をひいたり、行動を予測した環境構成に気を配ることが必要であると感じました。

周りの環境が整っていることに慣れてしまっているのもっと自然を利用した遊びや保育があることを念頭に置いて日々環境構成に関する研修や、話し合いを重ねて学びを深めていきたいと思ひます。